

📅 12月6日 火の国ハイツ

## 第3回データヘルス計画の効果的な実施に向けた学習会

## 情勢を読み解き、

## 将来を予測した保健事業の展開を



今年度第3回目となる今回の学習会には、県内各市町村の国保及び保健の事務担当職員並びに保健師・栄養士等の専門職合わせて約250人が参加した。講師には、第1回、2回に続き長野県飯田女子短期大学非常勤講師の熊谷勝子氏を迎えた。

はじめに、今の国の動きを確認し、中でも、後期高齢者医療制度における保険者インセンティブとして、特別調整交付金が今年度100億円規模になっていることに注目し、「重症化予防の取り組み」「高齢者の特性を踏まえた保健事業実施」の配点が大きくなっていることを学んだ。さらに、「高齢者の特性を踏まえた保健事業ガイドライン」

を読み、糖尿病や心血管疾患などの生活習慣病の発症や多剤服用などが、フレイル\*のアウトカムであると同時に原因にもなり得ることも学んだ。

医療費の視点からは、本県の医科40万点以上（心・脈管を含むものは70万点以上）の特別審査対象レセプト状況を詳しく分析した結果、疾病別にみると「大動脈解離」が最も多く、さらに、65歳以上の全ての年齢階層（5歳刻み）において全国平均を上回る件数割合であることが分かり、それが重症化して高額な医療費を使っている実態がみえてきた。

今回の学習では、「どこにターゲットを絞って保健事業を実施することがより効率的か」ということについて、介護予防の視点からも確認する機会となった。さらに、現在保険者が取り組んでいる「データヘルス計画」の着実な実施が、介護予防や高額な医療費がかかる疾病予防に繋がることを認識すると同時に、継続的な保健指導を実施することは後期高齢者の保健事業にも繋がること等を学んだ。

最後に、講師の熊谷氏が「高齢者の保健指導には、高齢者の医療面や健康状態を熟知した専門家が必要であり、その実践力となるマンパワーとして、市町村を退職した保健師等の活躍に期待する。」と締めくくり学習会は終了した。



※ 「フレイル」とは、『加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態』を表す。また、要介護状態に至る前段階として位置づけられるが、身体的脆弱性のみならず精神心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味する。